

令和7年度大分県学力定着状況調査 結果総括

令和7年度大分県学力定着状況調査結果総括＜小学校5年＞

国語				問題の内容 別平均正答率		佐伯市	大分県	目標値	結果概況 ○教科の正答率は、知識・活用ともに県平均を下回った。 ○領域別正答率は、「情報の扱い方」以外で県平均を下回った。 ＜課題と対策＞ ○問題の内容別において県平均と比較すると、「物語の内容を読み取る」において、3.8ポイント下回っているが、目標値との比較においては同等と評価できる。 ○問題の内容別において県平均と比較すると、「説明文の内容を読み取る」で4.4ポイント下回り、更に目標値に対しては7.5ポイント下回るという結果になっている。この傾向は、「調べたことをもとに文章を書く」ことにおいても同様で、県平均を4.6ポイント、目標値を13.3ポイント下回る結果となっている。これらのことから、本市当該学年の児童は、必要な情報を取り出し、適切に活用する活動において困難を抱えていると思われる。一定程度の長文やメモ等、連続・非連続のテキストを読み解く学習にも慣れておく必要がある。
教科の正答率	全体	65.9	68.1	66.0					
領域別正答率	知識	68.9	70.9	69.4		話し合いの内容を聞き取る	74.2	75.5	71.7
	活用	59.1	61.8	58.1		漢字を読む	90.7	90.2	86.7
	言葉の特徴や使い方	70.7	72.7	70.6		漢字を書く	58.3	64.5	63.3
	情報の扱い方	75.6	73.5	70.0		言葉の学習	65.2	65.4	64.0
	我が国の言語文化	61.1	62.9	65.0		物語の内容を読み取る	71.7	75.5	71.7
	話すこと・聞くこと	74.2	75.5	71.7		説明文の内容を読み取る	52.5	56.9	60.0
	書くこと	57.5	59.3	55.8		調べたことをもとに文章を書く	34.2	38.8	47.5
	読むこと	62.1	66.2	65.8		文章を書く	69.1	69.6	60.0

算数				問題の内容 別平均正答率		佐伯市	大分県	目標値	結果概況 ○教科の正答率は、知識・活用ともに県平均を下回った。 ○領域別正答率は、知識・活用ともに県平均を下回った。 ＜課題と対策＞ ○問題の内容別において県と比較すると、「面積」において5.7ポイント下回っている。また、「角の大きさ」は県平均を5.5ポイント下回り、目標値からは2.3ポイント下回っている。面積を求積する公式などの基礎的な内容は、教室掲示やタブレット内の資料等、すぐに取り出せる工夫が必要である。 ○問題別にみると、「わり算・計算のきまり」では、「 $240 \div 90 \times 2$ で求められる問題を選ぶ」問題で、目標値を7.7ポイント下回っている。また「 $8.17 \div 19$ をわりきれるまで計算」する問題で目標値と8.3ポイントの開きがある。四則の混じった式の計算順序や、小数のわり算といった基礎的な計算力を身につける必要がある。「角の大きさ」については、問題のラスト3問で無回答率が10%を超えており、時間が足りなかった児童が一定数いたことが考えられる。練習問題を解く時間の確保、スキルタイム等の活用により、問題を解く速さをつけることも必要である。
教科の正答率	全体	67.9	70.2	65.9		億と兆・概数の表し方	75.7	75.5	68.8
領域別正答率	知識	71.2	72.6	68.5		わり算・計算のきまり	60.5	61.4	61.7
	活用	59.6	64.1	59.4		小数	71.4	74.3	72.5
	数と計算	71.2	73.0	68.6		分数	82.1	84.3	78.3
	図形	62.4	66.8	62.2		いろいろな形	65.8	67.9	61.7
	変化と関係	65.0	66.2	63.3		面積	76.7	82.4	77.5
	データの活用	68.5	70.4	61.7		角の大きさ	52.7	58.2	55.0
						変わり方調べ	62.1	59.4	65.0
						簡単な場合についての割合	66.5	69.6	62.5
						折れ線グラフと表	68.5	70.4	61.7

理科				問題の内容 別平均正答率		佐伯市	大分県	目標値	結果概況 ○教科の正答率は、活用において県平均を上回った。 ○領域別正答率は、「物質・エネルギー」「生命・地球」とともに県平均を下回った。 ＜課題と対策＞ ○問題の内容別平均正答率をみると、「物の体積と温度」において大分県と3.2ポイント、目標値と4.7ポイントの差がある。 ○問題別にみると、「レールの隙間が最も大きくなる季節について推測する」問題は、正答率が39.9%であった。また、「部屋全体を暖めるためのエアコンの風向きについて説明する」問題は、正答率が25.9%、無解答率が17.0%であった。実験結果を日常生活における具体的な事象と関連づけて考察することに課題がみられることから、実験を行う前に「この実験結果はどんな場面で役立つかな」「身の回りにはどんな例があるだろう」といった導入や、実験後に「実験でわかったことを使って、あの現象を説明してみよう」といった具体的な振り返りの時間を設けることが大切である。
教科の正答率	全体	61.8	63.3	61.7		1年間の植物の成長	75.1	77.6	77.5
領域別正答率	知識	69.0	71.4	68.5		1年間の動物のようす	84.0	86.7	80.0
	活用	46.0	45.3	46.7		天気の様子と気温	69.7	72.4	65.0
	物質・エネルギー	55.1	56.2	56.1		電気のはたらき	51.7	53.4	50.0
	生命・地球	68.1	69.9	67.0		動物の体のつくりと運動	66.2	65.6	62.5
						月と星	57.2	60.3	60.0
						物の体積と力	66.9	67.6	65.0
						物の体積と温度	62.0	65.2	66.7
						雨水のゆくえと地面のようす	61.2	61.1	57.5
						水のすがた	57.7	57.0	58.8
						自然の中の水	69.2	70.9	70.0
						物のあたたり方	32.9	33.6	35.0

＜課題と対策＞			
○小学校		国語においては、必要な情報を取り出し、取り出した情報を活用したり、文章にしたりする問題、算数においては、三角定規を組み合わせでできる角度の大きさを言葉や式を使って説明する問題、理科においては、実験結果を日常生活における具体的な事象と関連づけて考察し、その事象について説明する問題に課題がみられる。各教科の授業改善として、自分の考えをもたせること、自分の考えを書いて表現する学習活動を充実させていくことが重要である。さらに、各学年の指導事項を確実に習得させるため、学校全体での定着・習熟に係る取組の検証改善が必要である。	
○中学校		国語においては、読み手の立場に立って文章を整える問題、数学においては、度数折れ線の特徴をもとに予想を説明する問題、社会においては、皇室と藤原氏の系図をもとに説明する問題、理科においては、2つの図を使って、マグニチュードと最大震度・ゆれが伝わる範囲の広さの関係を説明する問題、英語においては、英文を聞き、要点を捉えて自分の考えを書く問題の正答率が低く、また無解答率が高い。各教科において文章を読んで、題意を捉えることができない生徒が一定程度みられることから、目的のために文章の中から必要な情報を取り出し、取り出した情報を絵や図、グラフなどに整理することで、題意を捉えさせるなどの手立てが必要である。また、自分の考えを書いて説明することに課題があることから、自分の考えを書く学習活動を単元において確実に位置付けること、そして生徒の状況を見取り、個に応じた指導の充実が重要である。	

令和7年度大分県学力定着状況調査結果総括＜中学校2年＞

国語				問題の内容 別平均 正答率		佐伯市	大分県	目標値	〈結果概況〉 ○教科の正答率は、知識が県平均と同じで活用が県平均を上回った。 ○領域別正答率は、「我が国の言語文化に関する事項」と「書くこと」において県平均を上回った。 〈課題と対策〉 ○問題の内容別に県平均と比較すると、昨年度に引き続き「説明的な文章の内容を読み取る」において下回っており、その差が2.8ポイントから3.3ポイントとやや広がった。 ○問題別にみると、「目的に応じて必要な情報に着目して内容を解釈する」問題における正答率が45.42%で最も低く、「読み手の立場に立って文書を整える」問題における無解答率が19.9%と最も高かった。無解答率が最も高かった上記の問題は、文章の下書きを読み返し、別途準備した資料をもとに書き直すもので、加えて筆者（小川さん）の考えを繁栄させたものに仕上げるという複数の条件を満たすことが求められている。引き続き、与えられた条件を満たしながら自身の考えをまとめる活動を授業の中に位置づけるなど、日常的な取組が求められる。
教科の正答率	全体	67.6	67.6	61.4		76.5	76.6	68.3	
	知識	72.4	72.4	66.8	話し合いの内容を聞き取る	83.1	83.2	80.0	
	活用	57.5	57.1	50.0	漢字を読む	57.2	59.6	56.7	
領域別正答率	言葉の特徴や使い方	72.3	72.6	67.5	漢字を書く	79.8	75.7	66.7	
	情報の扱い方	49.4	52.0	50.0	文法・語句に関する事項	50.9	54.2	55.0	
	我が国の言語文化	81.8	74.6	70.0	説明的な文章の内容を読み取る	66.0	67.4	61.7	
	話すこと・聞くこと	76.5	76.6	68.3	文学的な文章内容を読み取る	51.6	54.1	48.3	
	書くこと	66.8	64.5	53.3	体験したことを文章に書く	73.9	69.2	56.3	
	読むこと	58.4	60.8	58.3	文章を書く				
社会				問題の内容 別平均 正答率		佐伯市	大分県	目標値	〈結果概況〉 ○教科の正答率は、知識は県平均を下回り、活用は県平均と同値であった。 ○領域別正答率は、全領域で県平均を下回った。 〈課題と対策〉 ○問題の内容別に県平均と比較すると、「中世の日本」において、4.3ポイントの差がある。 ○問題別に見ると「藤原道長が権力を握った方法について、皇室と藤原氏の系図をもとに説明する」問題は、正答率が27.5%で、条件とされる「摂政」の語を用いない回答が約12%、系図の情報や既習知識を適切に表現できていない回答が約34%、無解答が約27%であった。資料を読み取り、既習内容と関連付けて思考・判断・表現する授業を実践するとともに、問題演習や単元テスト等において、条件に従って解答する記述問題に取り組ませることが大切である。 また、「院政についての理解」を問う問題では、正答率が30%で、「摂関政治」や「執権政治」と混同している誤答が目立っている。「徳政令の内容を選択する」問題も、県正答率を10ポイント以上下回った。重要な語句については、言葉だけでなくその内容まで説明できるよう知識の定着を図ることが大切である。
教科の正答率	全体	45.7	46.5	47.6		46.9	47.7	48.3	
	知識	48.3	49.5	50.3	世界の姿	40.7	41.9	45.0	
	活用	39.9	39.9	41.7	日本の姿	62.5	61.7	56.7	
領域別正答率	地理	48.0	48.5	49.3	世界各地の人々の生活と環境	45.0	45.6	48.3	
	歴史	43.2	44.4	45.7	世界の諸地域	50.3	50.4	52.5	
					縄文時代～古墳時代	47.9	43.2	46.7	
					飛鳥時代～平安時代	37.2	41.5	41.4	
					中世の日本				
数学				問題の内容 別平均 正答率		佐伯市	大分県	目標値	〈結果概況〉 ○教科の正答率は、知識・活用ともに県平均を下回った。 ○領域別正答率は、知識・活用ともに県平均を下回った。 〈課題と対策〉 ○問題の内容別平均正答率をみると、「データの分布の傾向」において県平均と6.2ポイント、目標値とは8.7ポイントの差がある。 ○問題別に見ると、「累積相対度数」を求める問題で、正答率が40.9%で県と10.2ポイント、目標値からは19.1ポイントの開きがある。また、無解答率が17.3%に上っていることから、基本的な用語理解が定着していないと思われる。「新しい条件において予想できる事柄を2つの度数折れ線から読み取り説明する」問題では、正答率が17.4%にとどまった。一方で無解答率が51.9%であることから、データの見方の定着や、データをもとに分かることを話し合う学習活動を充実させることが必要である。また、「問題文に対して適切な1元1次方程式を立式する」問題は正答率18.5%、無解答率28.5%であった。問題文を読み取り、図式化するなどして立式に結びつけることが必要で、その過程において生徒間で説明し合う活動が有効である。
教科の正答率	全体	51.6	54.1	56.7		74.3	71.7	73.3	
	知識	57.3	59.3	60.9	正の数・負の数	63.3	65.5	62.5	
	活用	32.9	36.9	42.9	文字式	45.4	45.3	50.0	
領域別正答率	数と式	61.2	61.3	62.0	1次方程式	44.5	47.5	50.0	
	図形	52.2	54.9	60.0	比例・反比例	45.3	44.4	52.5	
	関数	44.5	47.5	50.0	平面図形	54.5	58.4	62.5	
	データの活用	41.3	47.5	50.0	空間図形	41.3	47.5	50.0	
					データの分布の傾向				
理科				問題の内容 別平均 正答率		佐伯市	大分県	目標値	〈結果概況〉 ○教科の正答率は、知識・活用ともに県平均を下回った。 ○領域別正答率は、全領域で県平均を下回った。 〈課題と対策〉 ○問題の内容別平均正答率をみると、「力の性質」において大分県と5.4ポイント、目標値と10.2ポイントの差がある。 ○問題別にみると、「皿の上ののせた物体が皿を押す力の矢印を作図する」問題は、正答率が23.8%で、作用点の位置の違い、1目盛りの値の違いが多く見られた。エネルギー領域では、目に見えない現象が多いので矢印などを使って可視化する学習を繰り返すことが大切である。また、「2つの図を使って、マグニチュードと最大震度・ゆれが伝わる範囲の広さの関係を説明する」問題は、正答率が12.1%、無解答率が32.1%であった。指定語句を使うことはできているが、マグニチュードとゆれの関係について説明できていない解答が多くみられることから、題意を正確に捉えることに課題があると思われる。内容を理解するために必要な情報の取り出し、取り出した情報をもとに自分の考えを書く活動を授業において充実していくことが必要である。
教科の正答率	全体	51.2	53.4	50.8		63.9	64.8	53.0	
	知識	53.2	55.8	52.0	植物の分類	72.8	72.4	58.3	
	活用	46.6	47.9	48.0	動物の分類	61.8	63.4	61.7	
領域別正答率	エネルギー	40.5	43.8	47.1	身の回りの物質とその性質	62.2	65.1	57.5	
	粒子	58.3	60.0	57.0	気体の性質	51.2	52.4	50.0	
	生命	67.2	67.7	55.0	水溶液の性質	56.9	58.2	56.7	
	地球	35.7	39.4	41.9	物質の状態変化	39.8	40.7	43.3	
					光の性質	52.3	57.0	60.0	
					音の性質	29.8	35.2	40.0	
					力の性質	46.1	50.1	43.3	
					火山	29.3	33.9	37.5	
					地層	29.5	32.4	43.3	
					地震				
英語				問題の内容 別平均 正答率		佐伯市	大分県	目標値	〈結果概況〉 ○教科の正答率は、知識・活用ともに県平均を下回った。 ○領域別正答率は、「書くこと」で県平均を上回った。 〈課題と対策〉 ○「英文を聞き、要点を捉えて自分の考えを書く」問題は正答率が10.6%、無回答率が30.1%であった。英文の概要を捉え、適切な文の形式や時制を判断することに課題があると考えられる。またまとめた英文を聞き、概要を捉え説明する活動や、スモールトークの継続的な取組を通して、自分の考えや思いを英語で表現する活動に取り組む必要がある。また「対話文を読み、必要な情報を捉えて、適切なプランを選ぶ」問題は正答率が22.3%と低かった。対話文を読み取る際に、接続詞に注目してなかったことが考えられる。接続詞に注目しただけで文章の流れを理解したり、キーワードを拾い、概要を英語でまとめる活動を取り入れた。 ○「対話文が成り立つように適切な語（be動詞の過去形）を選択する」問題の正答率が31.8%と低かった。be動詞の過去形の導入の際、一般動詞の過去形も再度取り上げ復習させるなど、既習事項と関連づけて指導する必要がある。 ○「春休みにしたことについて、英文を読み、聞かれていることに対してその返答を、具体的な説明を含め3文以上で書く」問題の正答率は県平均を上回ったが、無回答が36.3%と多かった。何を尋ねられているのかを把握する「知識・技能」の確実な定着に課題があること、目的や場面に応じた表現が思いつかないといった原因が考えられる。日々の授業の中で、言語活動を通して多くの表現に触れたり、出会った言語材料を確実に定着させるよう、継続した指導を行うことが重要である。また目的や場面、状況に応じて、自分の考えや気持ちを話したり書いたりする活動を授業に仕組む必要がある。
教科の正答率	全体	49.0	49.4	51.5		74.5	72.8	71.7	
	知識	51.3	51.4	53.5	リスニング（内容理解）	38.0	38.2	45.0	
	活用	44.8	45.6	47.7	リスニング（対話文の応答）	72.7	75.8	75.0	
領域別正答率	聞くこと	57.9	58.1	60.6	リスニング（さまざまな英文の聞き取り）	40.9	42.7	53.3	
	読むこと	45.5	47.0	50.8	語形・語法の知識・理解	69.0	68.8	72.5	
	書くこと	45.2	44.4	44.0	語彙の知識・理解	38.2	38.8	41.3	
					さまざまな英文の読み取り	44.2	47.9	46.7	
					長文の読み取り	59.1	63.7	60.0	
					単語の並べ替えによる英作文	38.7	38.0	40.0	
					場面に応じて書く英作文	38.5	35.2	35.0	
					情報に基づいて書く英作文	47.0	44.9	45.0	
					3文以上の英作文				